

スズキの知財活動に関する徹底調査報告



Genspark

Apr 20, 2025

1. スズキの知的財産の基本理念と戦略

1.1 知的財産に関する基本的な考え方

スズキの知的財産に対する基本的な考え方は、同社の社是「お客様の立場になって、価値ある製品を作ろう」を基盤としています。知的財産活動においては、価値を創造する知見および技術の権利化や、無形資産としての蓄積・保護・活用を基本方針としていますスズキ株式会社 [1](#)。

この知的財産戦略の中核となるのが、スズキの思想・文化の根幹であり、同時にカーボンニュートラルにも貢献するとされる「小・少・軽・短・美」の理念です。この理念は単なるスローガンではなく、製品開発から特許取得に至るまでの全プロセスにおいて、評価・選定の重要な基準として機能しています。

1.2 「スズキらしい」「そう来たか」を目指す知財戦略

スズキの知財戦略の特徴的な表現として「スズキらしい」「そう来たか」というフレーズがあります。これは、独自の「小・少・軽・短・美」の理念に基づき、顧客や社会のニーズの多様化に対して、スズキならではの知恵と工夫で独特な思想の設計開発を行い、顧客に驚きや共感を与える製品や技術を生み出すことを意味しています Yorozu IPSC [2](#)。

この「スズキらしい」「そう来たか」という表現は、スズキの技術開発の方向性を示すとともに、同社の知財戦略の評価基準としても機能しており、「小・少・軽・短・美」を体現する技術や製品の特許に対して特に重点が置かれています。

2. 知的財産推進体制

2.1 知的財産推進会議の設置と役割

スズキは 2022 年 3 月に、知的財産戦略を全社的に推進するための「知的財産推進会議」を設置しました。この会議には、取締役および設計開発、商品企画、経営企画、各事業部、知的財産等の各部門の執行役員・部長が出席し、知的財産戦略について全社的な議論を行っていますスズキ株式会社 [1](#)。

会議での議論・決定内容は経営会議および取締役会に報告・承認され、適切な知的財産ガバナンス体制のもとで知的財産戦略の実行が推進されています。2022 年のコーポレートガバナンス報告書から 2025 年の最新版に至るまで、この知的財産推進会議は継続的に開催され、多角的な議論を通じて、知的財産の創出体制の見直しなどが進められています

www.nikkei.com³。

2.2 知的財産部門の体制

2024年の組織改定では、知的財産部長に梶山正浩氏が就任し、知的財産部のさらなる強化が図られていますスズキ株式会社⁴。また、法務・知財本部として統合された組織体制のもと、全社横断的な取り組みが強化されています。

また、2024年度からは知的財産の創出体制を見直し、長期技術計画と知財戦略の連携、重点発明分野の選定、現場での発明発掘等の強化が進められています www.nikkei.com³。

3. 知的財産の創出・保護・活用の取り組み

3.1 報奨制度の改定とインセンティブ強化

スズキは2023年4月に知的財産に関する報奨制度を改定し、知的財産の創出に対して従業員一人ひとりが「褒められた」「認められた」「高く評価された」と実感できる内容に刷新しましたスズキ株式会社¹。

特に、スズキらしさである「小・少・軽・短・美」を体現する特許として、各本部長が自ら選出した発明者を全社イベントで社長から直接表彰したり、発明者と社長、役員らとの座談会を開催し、その様子を社内イントラで公開するなど、知的財産創出へのインセンティブを強化しています。

3.2 インドにおける知財活動の強化

スズキの主要市場であるインドにおいて、特許出願を積極的に強化しています。日本での約4,200件の特許権取得に次いで、インドでは約1,600件超の特許権を獲得・維持するなど、グローバル市場での知財保護に力を入れていますスズキ株式会社¹。

インド市場はスズキにとって重要な戦略拠点であり、現地のニーズに合わせた技術開発と特許取得が積極的に進められています。特に、電気自動車（EV）関連技術などの次世代モビリティ分野での特許取得に注力しています。

4. 「発明の日」関連イベントと社長表彰

4.1 2025年「発明の日」の座談会概要

2025年4月18日の「発明の日」には、スズキ本社にて鈴木俊宏社長と特許を発明した社員による座談会が開催されました。これは明治18年に特許に関する条例が公布されたことにちなんだイベントです www3.nhk.or.jp⁵。

座談会では、2023年4月から2024年9月までに登録された約794件の特許の中から、特に優れた10件に関わった社員15人が社長から表彰を受け、発明のポイントや開発秘話などを語り合いました www3.nhk.or.jp⁵。

4.2 表彰された特許技術の事例

表彰された特許技術の中には、以下のような具体例があります：

1. **インド市場向けEVバッテリー保護技術**：四輪車体設計部の市皓太氏が、インドの舗装されていない道路を走行する際に、地面との接触などで車体の下に取り付けているバッテリーが消耗することに着目し、特殊な部品を搭載することで、車体の軽

さや広さをほぼそのままの状態ですべての状態でバッテリーの消費を軽減する仕組みを開発しました www3.nhk.or.jp⁵。

2. **バイク用ケーブル補助技術**：バイクの外装を設計する社員は、スマートフォンなどをバイクに接続するケーブルを補助する部品を作り、ケーブルのたゆみによるハンドル操作時の引っかかりを防ぐ仕組みを開発しました www3.nhk.or.jp⁵。

これらの発明は、「小・少・軽・短・美」という理念を具現化したものとして評価され、表彰されています。

5. 特許取得実績と動向

5.1 特許取得件数の推移

IP Force のデータによると、スズキの特許取得状況は以下のとおりです：

- 2024 年：特許取得件数ランキング第 74 位（306 件）
- 2023 年：特許取得件数ランキング第 66 位（472 件）

IP Force⁶によると、最近の傾向としては、特許取得件数が減少しているものの、より質の高い、「小・少・軽・短・美」を体現する特許の創出に重点が置かれていることがうかがえます。

5.2 最新特許の特徴

スズキの最新特許取得状況（2024 年 10 月時点）では、以下のような特許が登録されています：

1. 車室音響調整装置（特許 7565012、2024 年 10 月 10 日）
2. 小型電動車両（特許 7565013、2024 年 10 月 10 日）
3. ハイブリッド車両の制御装置（特許 7563109、2024 年 10 月 8 日）
4. 車両用バッテリーパック（特許 7559549、2024 年 10 月 2 日）

IP Force⁶

これらの特許は、次世代モビリティや電動化、快適性向上など、スズキの将来戦略に沿った分野に集中しています。

6. 知的財産活動の成果と今後の展望

6.1 社内の知財意識向上

スズキの知的財産推進会議の設置や報奨制度の改定により、従業員の間で知財創出に対する意識が高まっています。特に発明者と社長との座談会は、発明に対する評価や認識を社内に広め、技術者のモチベーション向上に寄与しています biz.chunichi.co.jp⁷。

6.2 今後の知財戦略

スズキは、技術系の人材育成や知的財産権の保護につなげるため、今後も積極的に特許を取得していく方針です www3.nhk.or.jp⁵。特に、電動化や ADAS（先進運転支援システム）、コネクテッド技術など、次世代モビリティに関連する分野での特許取得を強化することが予想されます。

また、2024 年度からの知的財産の創出体制の見直しにより、長期技術計画と知財戦略の連

携、重点発明分野の選定、現場での発明発掘等のさらなる強化が進められる予定です www.nikkei.com³。

7. 業界内でのスズキの知財活動の位置づけ

7.1 自動車業界における特許ランキング

自動車メーカーの特許資産規模ランキング 2024 によると、スズキは業界内で第 6 位 (13,444.3 ポイント) に位置しています www.patentresult.co.jp⁸。トップ 3 はトヨタ、ホンダ、マツダとなっており、スズキはトップメーカーと一定の距離がありながらも、安定した位置を確保しています。

7.2 競合他社との比較

日産の知財戦略とトヨタを比較した分析によると、研究開発費と特許取得数の関係では、トヨタがより効率的に特許を生み出している傾向があります。スズキについては、1 件あたりの研究開発費はトヨタに次いで効率が良いと報告されています xtech.nikkei.com⁹。

このことから、スズキは限られた研究開発リソースを効率的に活用し、重点分野に集中した特許取得戦略を展開していることがうかがえます。

8. まとめ：スズキの知財活動の特徴と強み

スズキの知的財産活動は、「小・少・軽・短・美」という独自の理念に基づく一貫した戦略が特徴です。知的財産推進会議を中心とした全社的な取り組みと、報奨制度による社員のモチベーション向上策が相まって、効率的な特許創出・活用の仕組みを構築しています。

特に、インドなどの新興国市場を重視した特許戦略や、電動化など次世代技術への注力は、同社のグローバル成長戦略と一体化しています。また、「発明の日」における社長と発明者の座談会は、技術の価値を社内外に示す重要な機会となっています。

今後も、スズキは独自の「スズキらしい」「そう来たか」と評価される特許技術の創出を通じて、競争力の維持・強化を図っていくことが予想されます。

以上、スズキの知財活動について徹底的に調査した結果をまとめました。同社の特許戦略は単なる権利保護にとどまらず、企業文化や製品開発哲学と密接に結びついた独自のアプローチを採用しており、今後の競争力維持に重要な役割を果たすと考えられます。

Appendix: Supplementary Video Resources



外資系コンサル出身者に聞く「知財戦略と技術資産マネジメント ...

Oct 28, 2020



【サン・グループ若手社員インタビュー】 弁理士法人 藤本 ...

Jan 26, 2025

もっと詳しく

1

www.suzuki.co.jp

2

www.suzuki.co.jp

3

www.nikkei.com

4

www.suzuki.co.jp

5

www3.nhk.or.jp

6

ipforce.jp

7

biz.chunichi.co.jp

8

www.patentresult.co.jp

9

xtech.nikkei.com